

第5回 浜松市未来デザイン会議 議事録

平成26年5月24日（土）2時00分～3時56分

浜松市役所本館8階 全員協議会室

1 開 会

(事務局) ただいまから、第5回浜松市未来デザイン会議を開会します。進行は、会議のコーディネーター役をお願いしております、静岡文化芸術大学 根本学部長にお願いします。よろしくお願いします。

2 策定スケジュールについて

(根本学部長) みなさんこんにちは。休みでありますますが爽やかな季節になってきました。貴重な時間を割いていただきありがとうございます。今日もまた熱心に皆さんと議論できるよう努めて参りますので、よろしくお願いします。それでは早速お手元の次第を一緒に確認したいと思います。本日の議案としては、開会の後に、2、3、4が予定されていまして、各々に資料がございますので、資料の説明を事務局にいただきながら、順番に進めていきたいと思っております。それでは最初に、これは毎回確認してから議論に入るといいうやり方を取っていますが、この策定のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料2説明)

(根本学部長) ありがとうございます。年度も改まり、振り返りとどういふふうにごうるに向かっているかというのを確認いただければと思っております。いよいよ全体的流れもまとめを作る段階に入ってきたところかと思っております。では続きまして、議案の本題、今日は昨年度から議論を重ねて、事務局が庁内の調整、議会との意見交換等を経て、未来ビジョン基本構想の案が用意されています。これは昨年度からこのテーブル、またワークショップのような形で何度も皆さんと意見を交わしてきました。そして案を2回くらいお出ししたかと思っております。その案に対してまた色々な意見や提案、そして行政内部での検討、議会での意見交換等々を経て本日の基本構想案として事務局が取りまとめていただいております。先程のスケジュールにもありましたように、これを今日更にいくつか意見交換を経まして、この後はパブリックコメント案という形で市民の皆さんから広く意見を募るということを経て、10月くらいに最終案として固まるという説明だったかと思っております。

3 未来ビジョン（基本構想）案について

(根本学部長) 早速ですが これまでの議論に基づいて作られた案について事務局から説明をいただいて、その後また意見交換を進めていきたいと思っております。では説明をお願いします。

(事務局) (資料3説明)

(根本学部長) ありがとうございます。それでは早速本日の修正を施した案を巡って、皆さんからご意見をいただければと思っておりますが、今ありましたように事務

局からは、色々なご意見を頂戴して調整する中で、目次のページの将来像の項目の順番、それからもう一つは、1ダースの未来（理想の姿）の番号を付しているということについて、番号を付けるのか或いは番号を外す、それ以外の選択とか、その辺にお知恵を拝借したいということがありました。最初にこの項目の順番とか並べ方について何かご意見はありますか。

(村田亜委員) 順番ということではなく、一度全体を見直した時に、都市の将来像と理想の姿というものの関連性が分かりにくいと感じる部分がありました。まず多分、「未来へかがやく創造都市・浜松」というのが一番大きな大テーマになっていて、その下に「創造都市」「市民協働」「ひとづくり」という3本柱があって、さらにその下に続く「理想の姿」が図的に考えるとあるかなと感じるのですが、関連性ということがまず一つ、例えば12個の分野が創造都市とか市民協働、ひとづくりにどのように関わっているのかが見えづらいということと、市民協働の意味に関して、企業や行政、市民という色々な関わり方があると思うのですが、創造都市、市民協働、ひとづくりの主体が誰かということがはっきりと分かりにくくて、この将来像と理想の姿を誰に訴えたいのか分かりにくいので、そういう関連性を考えながら目次を作った方が良いかなと感じています。

(根本学部長) 例えばこんなふうにしたらどう？というようなことはありますか。

(村田亜委員) 実は資料を作ってみました。のちほど行政の方にお渡ししたいと思えます。本当に素案なので、また行政の中で考えていただきたいと思えます。

(根本学部長) では資料はのちほど頂戴できますか。この部分をこういうふうにと簡単に言っていたことがあればお願いします。

(村田亜委員) 例えば都市の将来像ですが、未来を創造する都市浜松として、その下に創造都市、市民参画、文化都市という位置付けにして、例えば創造都市であれば企業、市民参画であれば市民、文化都市であれば行政というように、そこに3つの柱を作って、その中に1ダースという、どこにも関連するという話で話合ってきたと思うので、そこを敢えて直接線で結び付けるのではなくて、3つの企業・市民・行政、どれにも関わるということで作っていただくのはいかがかと思えます。

(根本学部長) 他の皆さんからいかがでしょう。今のご意見を私なりに斟酌すると、上から順番に文字が並んでいるというのではなくて、ダイアグラムというか概念図的なものが付くと分かりやすいのではないかと思うのが一つです。それからもう一つは一對一の対応ではない、どの項目も創造都市に関連していたり、市民協働に関連したりするから、あまりかっちり線と線でつないで縦割りにになってしまうような示し方もまた逆にいけないだろうと、それから3点目は個人的な意見ですが、3つの将来像を、そういう意味では、創造都市は企業、市民協働は市民というものも一つの提案ですが、できればやはり創造都市というのは、企業も市民も行政も3つとも全部関わってくるという意味で3つまとめてあるというふうなことではないかと斟酌しますが、その辺もまた皆さんと議論を深めていきたいと思えます。後はいかが

でしょうか。後半の方ですが、1から12まで数字が付いたからといって必ずしも政策的な優先順位が付いたというふうに解釈しなければいけない訳ではないですよ。これはあまりそこまで神経質にならなくても良いかなと。さっき申しましたようにダイアグラムのようなものを付ければ、これは優先順位ではないというメッセージは伝わるのではないかと思います。あとは将来像を3つで、これもどっちが上でどっちが下で、というのは厳密ではない、松竹梅でどっちが上でどっちが下というように、そこまで神経質にならなくても良いかなと思いますが、何かご提案があればいかがでしょうか。

(田中委員)

30年後の都市の将来像というのが出ていますので、これについての創造都市、それから市民協働、ひとつづくりというのは、それぞれ関係があるから、あまり細かく考えずに、下のも番号を付けた方が分かりやすいと思います。順番にはこだわらないと先ほど先生がおっしゃいましたが、こだわらなくても結構ですが、折角「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」という大目標があるのですから、創造都市を先にするか、市民協働を先にするか、ひとつづくりを先にするかというと、枠にはめるような気がしますので、このままの流れでいって、どこからやっていくかというのは、その場で変えていけば良いのではないかと思います。

(根本学部長)

それでは、ちょっと前にしゃしゃり出るような発言で申し訳ありませんが、先ほど言いましたように、絵柄にする、二次元にするというのは結構メリットがあって、よくラウンドテーブル、丸テーブルというのをやりますよね。ですからこの3つをダイアグラムで、3つの輪みたいにそれから12個も12個が時計の文字盤のように並ぶとか、或いは横に並べるとかそういう示し方によって、決して優先順位ではないというメッセージを伝える方法はあるかと思います。ですからダイアグラムのデザインをちょっと工夫してもらおうということではいけませんか。後でまたご意見があれば頂戴したいと思います。

それでは続けて中身の話に入っていきたいと思います。今回修正を施した所、それ以外の所も含めて新しくご提案なりご意見いかがでしょうか。

(前田委員)

今日の本題からは多少ずれてしまうかもしれませんが、これまでのデザイン会議の流れを自分なりに振り返ってみて、私たちの意見を行政の方たちが汲んでいただいて、素晴らしい冊子ができあがっていると思います。ただこれだけ有識者の方々がこの場に集まっているので、細かい文脈の修正や、文章のニュアンスの訂正だけでは、多少さみしいような気がしています。最初に大命題として、「未来へかがやく創造都市・浜松」市民協働で築くというのが書いてあり、一行目が「未来の浜松をつくるのは、私たち市民です」というのが一番にきています。私たち市民、私たちが勿論市民に含まれるので、市民の意見というのをもう少し深い所まで汲み取って、今後のデザイン会議の内容を議論していければ、より良いものができると思います。いかがでしょうか。

(根本学部長)

はい、とても大事なご指摘だと思います。具体的にどうですか、進め方のお話なのか或いは冊子になっている文書上のお話なのか、その辺はどうですか。ちょっと言葉を足していただけますか。

(前田委員)

進め方に関してもそうですが、今5回ということで半ばを過ぎ、あと3回で自分たちの意見を汲み取っていただいて7回で終わりというのは、私たちも関わった手前、それで手を引くというのはちょっとさみしい気がするというのが一点です。内容に関してですけれども、細かい部分ではなくて、もう少し本筋の部分まで自分たちの意見を汲んでいただく場があると良いと思います。もうこれはすでに冊子としてここまで完成されているので、これから差し戻して訂正ということは言いませんが、今後にもし自分が言うような意見を汲んでいただいて、機会を作っていただくようなことを考えていただければありがたいと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。今のご提案ですが、たまたまコーディネーターを仰せつかりました私が、以前民間のコンサルにいたり、大学の教員になったりして、色んな自治体のこういうビジョンづくりに携わるチャンスがありました。その経験から申しますと、おっしゃるように色んな人の意見を調整して冊子として統一性のあるものにすればするほどディテールが見えなくなってしまう。或いは折角集まって熱く議論したものが、ある時点で、はいご苦労様でした、で終わりになってしまう、これは残念だなというのは全国に色々とあります。例えばこの冊子として仕上げていくものは非常に贅肉を落として読みやすいものにしていくのですが、今後の行政運営の中で他所の自治体がやっている例で言うと、100人会議とか、500人会議とか、或いはビジョンを印刷して冊子になったらそれで終わりじゃなくて、そのビジョンを推進していくためのビジョン推進委員会とか、何かそれをフォローしていく手続きなどを後につけるという運営をしているケースも多々あります。予算や議会の承認などありますけれども、このテーブルとしては、そういうふうにして冊子ができあがった後もそのディテールについての勉強会、つまり行政、市民、専門の方が一緒に入って、引き続きワークショップのようなことを続けていくとか、或いはこのビジョンを見守っていくためのそういったビジョン推進委員会とか協議会をやったらどうですかということを提案事項としてあげておきたいと思いますがいかがでしょうか。

(酒井委員)

隣の静岡市さんで、「ボイス・オブ・しずおか市民討議会」というのが行われていまして、それは手前味噌ですが青年会議所が2007年くらいから東京JCが中心となって広げていったもので、たまたま静岡さんが採用されたものですが、これは無作為に抽出された1500人の皆さんに静岡市から参加の案内状を出して、参加申込書が100とか200とか戻ってきてアンケートを配り、実際の皆さん方の地域での要望や考えを聞くというのをやられています。この中には単純に市の方から出すだけではなくて、実際に呼んで、行きたいです、と私たちみたいな形で選ばれて実際に内容に関して討議するという場があったりするのですが、そういったものを浜松市でも採用して頂いたりすると、当然議会の皆さんの考え方や予算面等々1500名に80円で配るといくらになるのかなというのも当然出てくると思うんですけど、同じ政令指定都市として県内にそういったこともありますので、参考にするのはいかがかなと感じました。

(根本学部長)

ありがとうございました。今のところは最終的にビジョンが固まった後、どういうふうに市民参加であったり、携わった人のもっと幅の広い広がりというものを担保するかということであったりの議論ですが、関連して

もう一つぐらい何か、それから座長の市長さんからも一言あればと思いますが、いかがでしょうか。

(鈴木市長)

はい、これはできて終わりということではなく、その後どうフォローしていくかというのは非常に大切な論点だなと今みなさんの意見を聞いて思います。ちょっと視点が変わりますが、最近皆さんも報道紙上でご覧いただいたと思いますけれども、増田 寛也さんの日本創生会議というところが、全ての日本の自治体の人口シミュレーションを出して、896つまり今の基礎自治体の半分で若い女性が半分以下になる、もうやっていけない自治体が、それを消滅可能性都市というふうに書かれていたのですけれど、これは大変衝撃的な波紋を広げています。私のところにも実は色々取材が来まして、浜松周辺はどうですかということで、幸いなことに浜松はそうなる前に周辺地域が全部合併して一つになったものですから、都市が消滅するような可能性があるようなところは現在ありませんので、今のところすぐそのような問題が生じるようなことはございませんとお話したのですけれど、その時感じたのは、我々は浜松の中のことだけずっと考えてきたのですが、おそらく今後日本的な課題として出てくるのは、自治体の枠を超えた連携とか地域間連携とか、既に今度の地方自治法の改正で、地方中枢拠点都市構想というのが出されています。比較的力量がある地方都市が、周辺の今後大変な状況になってくる自治体をカバーしていくという枠組みを作っていくという構想が出されています。おそらく自治体間、地域間の連携が今後、非常に大きな課題であり、比重を占めてくると思いますので、今からそういうのを盛り込むのは難しいので、具体的な推進の計画案を作る時にはそうしたことも意識しながらやっていかなければいけないのかなと、最近感じました。

(根本学部長)

はいありがとうございます。よろしければ論点をまとめておきたいと思います。今、市長さんのお話し、並びに直接にやりとりした内容は、未来ビジョンの次の推進プランに関わる部分があると思います。議論は順番に進めますが、ちょっと先取りして資料4の目次をご覧ください。自治体間の連携ということが今後、より一層重要な課題ではないかという市長さんからのご指摘がございました。それに関連する項目として、都市経営の考え方の①から⑤の⑤に広域連携という言葉が入っています。正確に市長さんがおっしゃったことが全部ここに入っているということではないので、またこれを色々バージョンアップしていかなきゃいけないのですが、それからもう一つは分野別計画の①から⑦の中の⑦地方自治・都市経営という項目があります。一般的に自治体のこういった中長期計画では、今回は30年後というビジョンがまずあって、そのビジョンの下に10年計画で、具体的な計画案がセットで付いてきます。具体的な計画案は5年毎、10年毎というふうに見直しながらやっていくというのが一般的です。資料4がそれに相当する訳ですが、大抵こういう計画は、⑦に相当する中に、ビジョンや計画を作って終わり、ではなくて、執行を評価しながら執行管理をしていく手続きや組織を定めましょうというのをここに書き込むのが一般的なやり方です。ですから折角ご提案をいただいたので、先程から出ていますように、計画推進のための委員会というのか、協議会というのか、或いはバーチャルなインターネットの中かも知れませんが、そういう推進体制を充実して作っていきましょうという提案としてこれを受け止めて、計画の中に盛り込んでいくと整理できるのではないかと思います。それからもう

一つは、ビジョンの段階で既に色んな議論をしたもののディテールがきれいに整理整頓されています。ビジョンはビジョンとして冊子を作るのですが、未来デザイン会議の議事録、あるいは議論の記録を市民の皆さんに公開していただいて、こんな広がり議論・調整を経た上でこれになったのだと分かるように、今も議事録は公開されていますけれども、一連の作業を終了するにあたって、こんなに広がりのある議論をしたんだよ、ということ情報を発信できるようにお願いをするということを考えます。よろしいですか。

では、引き続きましてビジョンの方の修正を経た内容について、中身についてまたご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

(河原委員)

今、推進ということをおっしゃいまして、それは当然このビジョンができれば進んでいく訳ですけど、10ページにおやと思ったところがあるのでお聞きします。30年後はもう人口が減るということは、人口問題研究所の方で、衝撃的な数を出している訳ですので、増やすということは大変なことだと思います。「不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています」とありますが、ビジョンですから、これは当然言葉としては良いと思うのですが、余程の施策の推進をしないとこれは難しいです。浜松でしかできないようなことができるのかどうかというのを含めて考えていただきたいと思えます。よくワーク・ライフ・バランス、男女共同参画と言いますが、愛情だけでこういうものは上がっていかない、妊娠と出産は女性しかできないことですから、心身ともに支援できるようなしっかりしたものを浜松で作上げていかないといけないと思えます。それでこのページの最後の方に「子どもが増えた気がします」とあるのですね。この言葉にどうも私は引っかけたのですが、増えた気がする、だから周りが愛情を注いでいけば子どもが増えますよというふうな考えられますけれども、先ほど申し上げたように少し具体的な推進する形を作っていたいただきたいと思えます。それからもう一つですが、次のページに高齢者について書いてあります。一つは見出しに60歳を過ぎるとカッコいい、となっています。今、色んなデータで高齢者というと65歳以上となっているのが多いと思えます。そして60歳を過ぎるとカッコいい、の次は65歳以上、次の行も65歳以上、それから、他のページもみんな65歳以上となっているのです。だからこの5歳の差をどうするのか。本文にないのを見出しに出ていることにひっかかりました。それからこの中に「まちなかに低所得者向けの住宅が用意される」だから低所得者高齢者をまちなかに集める訳ではないですが、そんなことをするのかと思えます。その他のページ、例えば2ページにも「居住エリアの集約化が徐々に進行して」インフラのことが書いてあって、その後「ライフステージに応じて 都市部から中山間地域まで最適な場所を選択して日々の暮らしを楽しむ」となっています。それから13ページにもやはりライフステージのことが書いてありまして、ライフステージに応じて都市部から中山間地域まで、最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます」となっています。それでさっきのところに戻ると、高齢者は低所得者向けの住宅をまちなかに用意すると、ちょっと区別したというか、その関連が良く分からなかったのも、住宅エリアの集約化ということと、低所得者向けの住宅をまちなかにだけ用意するのかと、その点をお聞きしたいと思えました。その3点が気になりましたのでお話ししました。

(根本学部長)

ありがとうございます。三点目については、11ページの記述、都心にも用意される一方で、中山間地域で晴耕雨読もいいね、ということで書いている趣旨は、都心に行けということではなくて、都心に住みたい人は都心にも住める、郊外がいいなという人は郊外にも住める、という趣旨だと思います。それが間違っただけ情報が伝わらないように書き方は工夫が必要かと思えます。必ずしもお年寄りには都心に行きなさいと書いてある訳ではないということは確認いただきたいと思えます。二点目、60歳と65歳これは表記上の事は考えた方が良くも知れませんね。それから一点目10ページですが、確かに愛情を持って見守っているだけでは簡単に出生率は上がらない。ですからおっしゃるように男性も女性もきちんと働く場所がある。しかもその働く場所はブラックではなくてちゃんと生活と社会のバランスを持って働くことができる、そして男女共同参画、そういったニュアンスがここにも少し、つまり子どもが育んで増えるということは単に愛情を持って見守っているだけでは駄目で、もっと具体的な、経済的な裏付けとかそういったことに繋がってわかるような記述を足すということではできると思えます。最後「気がします」というのはちょっと考えた方が良くも思えます。私が直す訳ではないので、事務局と相談して考えてみたいと思えます。

(村田昌委員)

実は今河原委員の意見を聞く前に手を挙げたので、今のお話を聞いて少し揺らいだ部分があるのですが、先ほど根本先生がおっしゃったように、多くの目を通してチェックが入れば入るほど文句がない文章になるけれど、人の心に響くものでもなくなるのだと思えます。外山委員がプロのコピーライターなのでお詳しいと思うのですが、もちろんこのページとこのページは言っていることが矛盾している、というのは事務的にチェックし直していただければいいのですが、記述の仕方については、今日こう思っても明日は違うというくらい変わってきますので、あまり長い時間をかけて議論しても、そのエネルギーだけの成果が出にくいのかなと思えます。さっき資料4の話を出していただきましたけれども、より具体的なことを議論する時に時間をかけた方が良くも思いました。

(根本学部長)

ありがとうございます。もっともなご意見ですね。でも折角休みを潰してご出席いただいているので、できるだけこの場でこれだけは言っておきたいということがあれば頂戴したいと思います。あといかがですか。

(長澤委員)

3ページの「つくる」の部分ですが、「アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれるといった連鎖」と書いてあります。こういった技術力を高めて実際に商売をしていくというニュアンスが入っていない気がします。例えば新しい市場を創り出すことによって世界経済を支えていくといったそんなニュアンスを入れていただけると良いなと感じたのと、もう一点、2ページの人づくりの部分の最後、「ひとモノ ことを循環させるサイクル」ということがあって、これはイメージということだと思いますが、サイクルということだと、Aという地点からまたAという地点に戻ってくるというイメージがあるのかなと思えます。新しい価値を生み出すということであれば、例えば「融合させるプロセス」というような前向きな表現の方が良くも思いません。

(根本学部長) ありがとうございます。これは議事録に留めて改善版に活かしていきたいと思います。後はいかがでしょうか。

(鈴木厚委員) 全体的なことですが、一つのデザインとして10年後、30年後という部分の中で、皆さんのご意見をお聞きしたいなと思っていたんですが、「人」と「モノ」的な部分ではあるけれども、こうなったらいいねというのが大分盛り込まれていると思うのですが、お金の部分について、この30年は、もっとコンパクトにというか、財政的にかからないようになっているのかというような観点がどこかに織り込まれていないと、理想だけ言っているような気がします。あと税金がもっと必要になりますよという方向で良いのか、それとも自分たちで色んなことをやっていくので、税金なんか少なくとも豊かに暮らせるようなデザインになっているのか、という人、モノ、金の流れというのをちょっと抑える文言というのか、お金の流れもこうなっていたらいいねという部分もどこかに織り込まれていると良いのではないかと思います。

(根本学部長) はいありがとうございます。では先ほどのご提案もありますし、今後この会の後追加のご意見、またパブリックコメントの時にも改めて委員の皆さんからご意見をいただける機会もあると思いますので、ひとまずこのビジョンの案については一旦ここで括りたいと思います。その後資料4に基づいて、このビジョンの下で具体的に施策を展開していく議論に進みたいと思いますが、最後の委員のご提案にありました人、モノ、金、最近では経営学ではそれに情報というのを付けますが、奇しくもというか資料4の目次をご覧くださいますと、ビジョンを受けてそれをどう実現するかというところに、都市経営というキーワードを今回は使っています。このことによって、人というのは市民・企業・行政が共に参加する、モノというのは、色んな場であるとか、地域資源、経営資源を共有する、そして財源、お金、そういったものを都市経営の中に多分きちんと書き込んでいく必要があると思います。そういう意味ではビジョンの段階でも、これを実現するためには、具体的に人やモノや金そしてノウハウやナレッジという情報資源、地域資源を使って実現していくということをビジョンに一言書いておく。それを受けてこの推進プランの方で、具体的な都市の経営はどうするかということを書く、そんなふうにまとめていけたらと思うのですが、どうでしょうか。

5 基本計画案について

(根本学部長) では次の資料4のビジョンを受けて、どう推進するかというところに今日は話を進めたいと思いますので、説明をお願いします。

(事務局) (資料4説明)

(根本学部長) はい、ありがとうございます。今度はビジョンの下での10年スパンの推進プランということで、このテーブルでは初めて出てきた資料かと思いますが。全体の構成、それから都市経営という考え方、更には分野別の計画の記述の仕方、どこからでもよろしいので、ご意見頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

(村田亜委員) ちょっと教えていただきたいのですが、例えば2番の子育て・教育ですが、この分野別計画というものは、例えば関係部署に関しての計画になるのか、それとも例えば2番で言うと、子育てに関しては子ども家庭部ですけど母親の就労についてはまた違う部が関連してくると思うのですが、この分野別計画というのは、この計画に沿って他方の部署も関連していく目標とか計画になるということでしょうか。

(根本学部長) もし行政が考えていることがあればお願いします。

(事務局) この分野別計画につきましては、各分野ということなので、当然ながら一つの部局だけという考え方ではなくて、子育て・教育ということに関連部署で考え方をまとめて、30年に向けて、まず10年をどうするかという形の中でこの計画ができあがっていますので、この10年の間に10年後の姿をどのようにやっていくかというところで関連部署の考えをまとめてあとご理解いただければと思います。

(村田亜委員) 10年後の姿の実現に向けてというところなのですが、私は子育て・教育の部分しか見ていないのですが、例えば最後の行の「音楽を中心とした芸術や地域の伝統行事などに触れる機会を設け、」という今も既にやっている、ずっとやってきたことだと思うのですが、これは10年後の姿の実現に向けて、新たにやることというよりは今までやってきたことを書いているという感じがします。できれば新しいものを取り入れる、ちょっと具体的なものが思い浮かばないのですが、そういうものが入った方が良いのではないかと思います。他の分野では入っているかも知れないのですが、ちょっとここは気になったのと、あと10ページの政策体系ですが、基本政策と政策があって、2番のところは「まちづくり」に関する「環境づくり」に限定されているのですが、人づくりということに関する取り組みの推進として統一されているのですが、これは何か意図があるのかなというのと、他の分野のところにも言えるかと思うんですけど、例えばこの政策に関して、「子どもの生活や学びを支える教育環境づくりの推進」をするという目標は勿論大事だと思います。そういう社会になったら良いなどは思うのですが、その方法論というか、どういうふうな課程を辿ってそういうところに行きつくかというところは、この計画の中には入っていないのですが、別のところで提示されたり考えられたりするのですか。もしないのであれば、そういう方法論についてももう少し踏み込んで、検討していただければと思います。

(根本学部長) はいありがとうございます。この分野別のところは多分斟酌しますと、今日の案はまだ完成度の低い物だと思います。ですから、こういうふうにしたいですけどいかがですか、ではなく、例えばこんなふうに、こういうテーブルでいただくご意見は既にこうしたいと思っているのを直してくださいということではなく、むしろこういうふうに作りましょうというふうに受け止めていただければと思います。そういう意味では、いくつかありました取り組みの推進という語尾なんていうのもまだまだこれは変わっていくと思いますので、まだ固まっていないところではあります。それから計画のプロセスというところはとても大事なところで、多分具体的な計画に固まる際には、この子育て・教育は、A4で2ページで終わるボリュームではないと思いますので、おそらく目標だけを書くのではなく、あれをし

て、これをして、誰が何をやってということは当然書かれることだと思います。それから最初のご指摘の今日の書き方ですと、全部まとめてガチャっと書いてあるのですが、つまりこれまではこうしたけれども、新しくこのように変えますよという内容、それからこれは未来も着実に続けていくんですよという内容、それから新たにこういう施策を追加しますよ、こういうのが分かるようにきちんと書き分ける、これは子育て・教育だけではなくて他のところにも共通してそういうふうにしていただけると良いかなと思いました。あといかがでしょうか。

(外山委員)

全体的な話ですが、12項目の、1ダースの未来を作ってきて、こちらの推進プランの方の目次をみると、都市経営を合わせるとまた12個入っているのですが、ちょっと会議にずっと出ていた人でもこっちからこっちに資料がいく時に、どの理想の姿がどこに入っているのかというのがちょっと見えづらくて、で一番上の方に【実現を目指す1ダースの未来：01、02、10、12】など一気に4つの理想の姿が、この産業経済の一つのところに入ってくるとか、折角こちらで30年後の理想の姿を描いても、こちらの推進プランにくるときに、それが凝縮されるというか、凝縮という言い方よりもこぼれ落ちるところがいっぱいあるのではないかなと思っていて、そこからまた10年後の姿の実現に向けてという文章と、基本政策ではまたキャッチコピーが出ています。そうすることによって逆に、バックキャストिंगではなくフォアキャストिंगになっていくのではないかなと思っていて、バックキャストिंगであるなら、1ダースの未来が一番基準にあって、それに対してそこに行くには、この基本政策としてこの課だったらこういうことだよ、この課だったらこういうことだよ、強化分野とか継続分野として、この10年間はここを強化しましょうとか、ここはずっと30年間継続することだよという見出しみたいな置き方が分かりやすいかなと思いました。とにかくこの1ダースの未来が一つのことに対して、5つか4つとか入ってくると、多分委員の皆さんもこれを見て、自分が言った意見はどこに入ったのかが分かりにくいのではないかなと思いました。以上です。

(根本学部長)

ありがとうございます。ビジョンの12個の未来像と、推進プランの内容との関連性、例えばダイアグラムみたいなものを間にかませるというやり方があります。それはそれとして、重要なお指摘は分野別計画の項目の立て方は両方あり得ると思います。12個の未来で小見出しを立てるというやり方と、今回案にあるように、一般的に自治体の計画というと分野別になるのですね。どちらが分かりやすいかというのは私もちょっと難しいと思います。例えば1ダースの未来の一つ目の未来像というのは、何々部何々課ではこれをやりますという書き方ができるのですね。一方で市役所の福祉課っていうのは一体何をしているところなのですか、というふうにするとうまく分からなくなってしまいます。一長一短があると思います。ただそういうご指摘があるということで必ずこの目次立てでなければ作れないという訳ではないので、また検討していきたいと思います。あとはいかがでしょうか。

(河原委員)

今おっしゃったように、やはり大変分かりにくい部分があります。根本コーディネーターがおっしゃいましたように、関連性のあるものをそこに全部入れていったのだと思いますけれども、例えば文化・生涯学習、多文

化共生のことが出ていますね、認め合うっていう。他の関連性みたいなものを見ていきますと、ほんのちょっと関連があってもそこに入っているから、多文化共生も文化とか生涯学習、海外の文化ということも考えられるのかなと思いました。そういう意味も含めてちょっと整理をしていただくと分かりやすいと、そういう思いがしております。

(根本学部長)

ありがとうございます。これは本当に難しいですね。縦割りにどうしてもなってしまうのですが、かといってあれもこれも関係がありますと書けば書くほど余計わからなくなってしまうので、何とかこれを頑張って、次に皆さんで見るときには、もう少し整理整頓されてメッセージが伝わるようなものを事務局と一緒に相談して工夫してみたいと思いますけれども、おっしゃるご主旨は皆さんにご了解いただけていると思います。多分線を全部繋ぐとすごく複雑な図形になってしまいます。ただおそらく線の太い細いがあるはずですが、だからどうしても物事をこう順序立てて説明していくためには、項目に分けなくてはいけないのですが、どこかで割り切らなくてはいけないというのと、あと太い線と細い線で繋がっていますよというのが読み取れるような書き方があると思います。工夫の余地があると思います。あといかがでしょうか。

(酒井委員)

今議論があったところと少し違うのですが、都市経営の考え方の中で、4番で変化を恐れない、自立したまちづくりということで、東日本大震災とか、津波の事が書いてあって、まちづくりの中でそういったものを解決するというのがあるのですが、次のページ、5番で広域連携によるまちづくりというところがあって、そこは三遠南信地区の話が書いてあって、文化であったり、経済であったりという部分を中心になると思うのですが、関西広域連合というものがあって、その中でやられていることは当然、経済であったり、文化であったりということもあるのですが、有事の際、地震が起こった際、どこがどこを助けるかという具体的なことが行われていたりして、例えば、具体例を挙げて恐縮ですが、福井で原発事故があって避難する際には、どの地域の人たちがどこに逃げていくかとうところを、関西広域連合の中で、奈良だったり京都だったりということが受け入れましよう、静岡に当てはめて申し訳ないですが、御前崎で何か問題があった時に、例えば浜松市の地域のどこが受け入れますよというようなことをここに書けということではないのですが、地域で広域的に有事があった際に助け合っていましようというようなことが書かれている方が良いのではないのでしょうか。もし今そういったことがないのであれば、そういったことを目指すとか、そういう気持ちがありますという形でも良いのではないかと感じて読ませていただいていたのですが、いかがかなと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。都市経営のところなので一言、私もこれを事前に読んだので、意見ということで話を聞いていただければと思います。一つ目の市民協働のところですが、これは全体的なことがここに書かれているのですが、そういう大きな考え方として、21世紀の少子高齢社会は分業化、専門化ということが進み過ぎるとかえって非効率になるということがあると思います。市民参画と協働というのは、プロに仕事をお任せして、市民は税金だけ払ってれば良いということではないということだと思います。そういう意味では協働というのは、都市の経営資源、人、モノ、お金、それから情報ですね。情報については、ICTは書いてあるのですが、

ノウハウとかナレッジと言われる、ナレッジマネジメントというような地域を経営する経営資源は皆で協働して出し合ってやるということを一言入れられたら良いなと思いました。それから2番目の持続可能ですが、環境的な視点がかなり強く入っています。ただサステナブルシティというのはエコロジカルなことだけではなくて、経済的なこともあります。だから持続可能というのは経済というのがちゃんと循環し、ビジネスがまわっていくというのもサステナブルな社会、都市経営だと思うので、そういう意味では環境が維持されるというだけではなくて、昨今の言葉で言うとコミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスとか、いわゆる社会課題をビジネス化してちゃんと経済がまわるということを入れてくれたら良いなと思いました。それから3番目の創造都市のところですが、これも先ほど言いました2と絡むのですが、やはりこの創造産業として発展していく展望というのをもっと言っているのではないかなと思います。ものづくりのまちとして発展してきたという歴史がありますので、その歴史を更にバージョンアップして、クリエイティブなものづくり、それはちゃんとビジネス化して、産業化して、未来に繋がるという記述になったら良いなと思います。4番目と5番目は今、委員からご指摘がありましたように、一つの浜松、合併して大きな自治体になりましたけど、孤立してやっていける訳ではないので、そういう意味では色々な意味での多様なネットワーク、連携、支え合いというニュアンスがあるのかなと思ひまして、特に5番については三遠南信の話が沢山載っているのですが、これは本当に明確に市の政策として、三遠南信一本で行く、というならそれで良いのですが、もうちょっと多様性のある書き方もあるのではないかなというのが個人的な意見です。

(外山委員)

今の話に関連するのですが、都市経営の考え方の見出し5つの中の4つとも、最後は全部市民協働によるまちづくりというような形になっていて、一般の方が見た時、まちづくりって多分中心市街地のことをイメージさせると思っています。先ほどおっしゃったように、持続可能な環境経済、そういう見出しなら分かりやすいのですが、4つとも全部まちづくりとなっているので、ここは見出しの付け方をもう少し絞って分かりやすい単語にした方が良いかなと思いました。

(根本学部長)

平仮名のまちづくりという言葉は非常に便利ですのでつつい使ってしまう。大事なことを指摘していただきました。あとはいかがでしょうか。

(杉山委員)

単語の話に関してなのですが、個人的に基本計画とか基本構想は分かりやすい、私でもサクサク読めるような資料になれば良いかなと思っています。そのような視点でみると、やはり行政用語というか、行政の人にしか分からないだろうなというような用語がすごく沢山入っていると感じています。8月にパブリックコメントがある時に、市民の皆さんにこの資料を読んでいただけたら、どの言葉が分かりにくいですかという意見を集めたり、丸を付けてもらったりして、そうすれば行政の人も、この言葉はちょっと行政の人の考えと市民の考えとの認識のずれがあるのかなということが見えてくると思うので、その言葉のずれを調整すれば、もっと分かりやすいのかなと思いました。

(根本学部長) ありがとうございます。おっしゃるようになるべく分かりやすい、誤解の少ない言葉に揃えていくのが良いと思いますし、どうしても使わざるを得ないという時には、格好は悪いですが、用語解説集みたいなものを付けるというのを他所の自治体でもよくやっていると思います。あといかがでしょうか。

(村田亜委員) 今、市民に分かりやすい言葉というのがあったので、質問なのですが、この推進プランというものは広く一般に公開するものですか。

(事務局) はい、広く一般に公開するものです。

(根本学部長) 普通こういうものは基本的には公開の原則で、ただ問題はその方法ですよ。冊子に印刷して配るのか、全市民に配るほどは予算がもったいないかもしれないですね。或いはどこかに置いておくから見なさいといって閲覧するのか。当然今の時代ですからウェブサイトにも載せると思います。でも載せたよというのはダメだと思います。さきほど推進体制で色んなビジョン推進協議会みたいなのがあって良いねと言ったのですが、地域ごとにタウンミーティングを実施して、これをみんなで学ぶということもあって良いと思います。

(村田亜委員) 今勉強会という言葉が出ましたが、浜松市の特性としてとても広い範囲で構成されているので、今は市役所でまちなかに集まってこういう会議をしているのですが、できれば天竜など、地区によって特色がとても違うと思います。だから抱えている問題も違うと思うので、もしそういう勉強会を検討していただく際には、こういう全体会ももちろん必要だと思うのですが、地区によっての勉強会や会議なんかも考えていただけると良いかなと思います。

(根本学部長) ありがとうございます。それは先ほど申しました推進体制などで検討できると思いますし、このビジョンの目次立ても、今は全市一本で分野別になっていますが、地域別などもあるかも知れないですね。これも自治体によっては地域別計画というふうにしているところもあります。

(田中委員) 相対的に見ますと、この進め方自体、文章が悪いとは言いませんけれども、やはり各個人がどこまで我慢をして、どこまで自分の方も削れるかということをやっていないと、市民というのは全て悪いことは全部行政におんぶに抱っこということが非常に多いですから、やはり受益者負担ということになるのであれば、自分のプラスになることなら削ることも削らないと、全て行政がどうだこうだと言っても始まらないと思います。それからここに出ている、戦後、浜松市がオートバイができた、やれ光産業云々というのは、別に行政がやれと言ったのではなくて、どうやれば飯が食えるかということをやったことであって、当然そういう各個人が飯を食うために何からやるかという気を起こさせないと、行政主導というのは、まあまよめ方向性は行政主導でいいんですが、あとは個々にある気持ちを出さないと、皆きれいごとで終わってしまって、素晴らしい文章でございませぬ、しかしながら30年後は何も残りませんという、私らも死んでも死にきれないから、やはり泥臭くても良いので、何かできちんと残さないと30

年後の未来はない。戦後でも、世界に冠たるオートバイだって別に行政がオートバイをやれと言った訳でも何でもなく、それぞれ自分たちが、どうやって飯を食っていくかというので、それが現在に至っている。光産業だってホトニクスさんは自分らが汗水たらしてやったことが今は世界的な産業になっているという訳ですから、各個人がどこまで我慢していくかを自分たちで考えないと、この書類で一定の方向性が出ています。それに競合していなないと、全部レベルが違います、ドングリの背比べだけではないですから、そこらに変化を持たせないという意味がないですよ。例えば持続可能なまちづくりというのも、例えばマグロを例にとれば、マグロは止まれば死んでしまいます。食べられるまで動き回っている。行政の動き方も同じだと思います、それが長い50年や100年後のまちづくりに繋がると思います。

(鈴木市長) まさに今、田中さんがおっしゃったことが市民協働の神髄ですね。

(根本学部長) 確か最初の方でご指摘があったかと思うのですが、主語がないですね、今日の資料は。だからビジョンはあります、それを実現するために都市経営という考え方でやります。ああそうですかと。ではその経営の主体は何かということと全部行政がやるわけではないですね。どうしても行政の事務局が案を作ると、行政計画が骨組みになるので、全部行政がやってくれるのというふうに見えますが、そうではないということをしっかり書く必要がありますね。だから都市経営を持ち出した段階でその経営の担い手は誰なのかと、市民であり、企業であり、NPOも入りますし、当然、行政も入ります。行政が全部経営するのではなく、市民や企業が伸び伸びと活躍できるような環境整備をするのが行政の役割だと思います。その役割分担をしてやっていくのですよということ①から⑤の前に都市経営の考え方として書く必要があるかも知れないですね。その中で行政がやるのはこれですよ、というような仕分けをしていただこうと思います。

(松本委員) この資料は全然絵がないですね。文章ばかりなので、見開きのところにこれの全体が一目で分かるような絵を入れて、その中に先生が言われたようなこの部分は市民協働でやりますよ、ここはこうですよというものをに入れていく。例えば最初のところは1ダースの未来というのがくるはずですよ。その後には都市経営の考え方というのがきて、それから分野別計画がきて、そしてそれを実際には実行していくところがあるはずですよ。そういうものを絵で見て、まずこの文章を読む前に全体の構想が分かるようなものがあって、協働でやっていくこと、市役所がやること等が最初にポンと分かるようなものがあると分かりやすいのではないかと思います。

(根本学部長) はい、そうですね。模式図が是非ほしいですね。ビジュアル的な。デザインの力を活用してほしいと思います。

(須藤委員) はい、私もずっと気になって、もやもやとしたものがあったのですが、今の松本さんのご意見とか、根本コーディネーターの先ほどの説明ですっきりしたのですが、市民協働という言葉が非常に沢山使われていて、市民に期待される部分が非常に大きいというふうに感じています。それは大変に皆が責任を持って行動できるということで素晴らしいと思うのですが、多分私、初回か2回目の時に言ったと思いますが、今は高齢者も女性も障

がいのある方も皆働きなさいと言われてるのがこれからの時代だと受け止めています。そうすると皆働いて市民協働、市民活動をしていくのは一体誰なのだろうかという疑問がずっと解決されないままにきていたのですが、先ほどの根本コーディネーターの話では、行政の責任、市民の責任、企業の責任、そんなふうにして明確に文章に表していただければ、企業の責任は非常に大きなものがあると思います。企業も市民として、働く人たちの生活を保障するだけではなくて、働く人たちの市民活動も支援するような企業のあり方を考えていただきたいと思います。ですから先ほどのように企業の役割というの、これまで出てきているのは、やはり一般市民と行政の役割が主に出てきているのですが、企業についての責任というの、明確に書き表して理解を求めていくということをやっていただきたいと思います。

(根本学部長) はいありがとうございます。後はいかがでしょうか。

(村田昌委員) どういう分かりやすい資料を作るのかということが、今お話しされましたけれども、その前にも根本先生が、どう届けるのかという話をされていまして、分かりやすい資料を作って配るといのは大事なのですが、やはり読まされるというか見せられるというよりも、自分の意思で読むというのがすごく大事だと思います。そういう意味ではこのデザイン会議、という仕掛けというのは、少なくとも一般の人に、専門委員もいらっしやいますけれども、一般委員の人は論文を書いて応募して、面接をして、会議に呼んでいただいてということで、おそらく一年前は市の行政にあまり関心がなかった人たち、特に一般市民ですね、が非常に関心を持ちました。きょうも記者の人が来ていますが、新聞で見ても浜松市の行政の記事を今までよりも真剣に読むようになってきたのではないかなと思います。このようなことが関心を持たせる仕掛けとして非常に大事で、先ほど勉強会やミーティングという話も、広い公民館の壇上で市の人が話して、動員も含めて100人くらいが聞いているだけというような感じではなくて、小さなワークショップを開くとか、そこに予算がどれくらいかかるかわからないのですが、それは工夫をしていただくとして、そういう伝える企画というのは、この未来デザイン会議のような面白く、我々は参加していて面白いので、こういう発想で色んなことをやっていけば、自ずと自分事として情報をチェックするでしょうし、誤解を感じれば聞くこともできる、答を返してもらえることも分かった、とその環境を作っていくことが非常に大事だと思いましたので、これが終わってからもこのメンバーだけじゃなく、更に拡充してこんな輪を作っていただけると良いなと思いました。

(根本学部長) はい、他はいかがでしょう。

(外山委員) 今村田委員の意見にアイデアとして思ったのですが、これだけ良い行楽日和の晴天の中、会議室にこもって、晴れのまち浜松が会議室にこもって会議をするというのを逆手にとって、例えばですけど、晴れのまち浜松は、市の未来を考える会議を浜松城公園で晴天の中開催するというだけでも、ちょっとした記事になるだろうし、ネットでもそういうニュースというのは流れやすいと思います。それが開催しやすいかしくいかという問題は当然実行時点であると思いますので、話題になるような仕掛けでそれに乗じて晴れのまちを一緒にアピールしていくような、伝えていく場とい

う手法にも一つ工夫が欲しいと思いました。

(酒井委員)

是非飛龍祭りでそういうことをやっていただきたい。半分冗談かも知れないですけど、ずっと会議は浜松市内の市役所で、色んな考え方もあったり、コストの面もあったかなと思うのですが、区内色んなところがあって、様々な区でそういったもの、場所を見ながら色んな所へ行って会議をやった方が良かったのかなと今になってみれば、そんなことも思ったりします。先ほど外山委員がおっしゃったように、色んなイベント、北区であれば姫様道中であつたり、中区であれば家康楽市であつたり、そういう色んなイベントがある中でそういうのも仕掛けとして、市民の皆さんに知っていただくのには面白いのではないかと思います。

(根本学部長)

本当はもっと時間と予算があれば、ご提案をどんどん活かしてもっとできたら良かったと思いますが、今からでもできることがあるので、また一緒に考えていきたいと思えます。また、幾つか出たのは推進体制についてのところですね。そこはとても大事なところなのでまだまだ深めていきたいと思えますが、一旦推進体制のところはそういった多様な形で市民の皆さんが受け身ではなくて、前向きにこのビジョンを受け止めて実現していくような仕組みづくりをしましょうということはよろしいですね。ではそれ以外のところでご意見ありましたらいかがでしょうか。

(村田昌委員)

質問ですが、例えば分野別計画の14ページと15ページの、環境・エネルギー、これは私も比較的関わっているテーマですので、考えたことと照らし合わせてみますと、まず最初に【浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿】とあって、その下に10年後の姿があって、実現に向けての文章があって、ずっとある中でこの辺りはすべてその通りと、斬新なアイデアではないけれども、間違っていないことが書かれているなというふうな印象を受けます。そして次のページ、政策体系の政策の柱も前のページの言葉がそのまま載っているだけでして、その下の基本政策というの、それを二つに分けていますね。だからここまでは完成されていると思うのですが、政策が上が5つあって、下が3つありますけれども、要するにこういうことをやっていきますよ、例えば一番上に「環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくり」という言葉自体はこれまた非の打ちどころのない言葉だと思えます。問題はそのためにな何をするかというのが具体的な政策だと思うのですが、それは未来デザイン会議で議論するテーマではないのですか。ここまでの表の完成、この2ページを完成させるまでが未来デザイン会議の私どもに意見を求められていることなのか、環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくりのために何をしたらよいかということまでが議論になるのか、それをすると相当な時間になってしまうと思うのですが、専門委員の皆さんはそのアイデアをお持ちの方だと思います。私も市民委員ではありますが、自分の知見を活かすとしたらそういうところに意見を出せるかなと思うのですが、それがちょっと迷いながら、自分のところに関してはこのディテールまで言いたいけれども、知らない所に関しては何となく全体の構成と言葉遣いに意見を言ってしまうというふうになってしまう。そこで自分の中で整理できていない。質問でも意見でもなくて、感想です。

(根本学部長)

一点事務局さんでお話しただければ、このテーブルでどこまで議論

していくのか、ということと今日はサンプルが載っている状態だと思いますけれども、この推進プランはどこまで具体的ディテールが書きこまれるのか、ちょっと見直しをお話しいただけますか。

(事務局)

今のご質問の部分で言いますと、確かに一番重要な部分が抜けていて、非常に分かりにくくなっていると思うのですが、基本政策の実現に向けた取り組みというところがまだ◆と○になっているような状況があるかと思います。一番下の基本政策のところというのは、行政側が責任を持ってやっていって、それを実際に10年の姿に向かって行く内容になっているかどうかというところを、この基本政策でより分かりやすくまとめていくという形になろうかとは思いますが、ここのデザイン会議の中で皆さんにお願いしたい部分というのは、まず基本構想から実際の10年後の姿というところの実現に向けてのところまでが、しっかり連動していると言いましょうか、そういったところを是非見ていただきたいという思いは持っております。ですので、個別具体の政策については、これは行政側で責任を持ってやっていくことになるのですが、ただできるだけこういった中でご意見はどんどん言っていただければと思っております。

(根本学部長)

はいありがとうございます。ですから大きくは全体像、それから全体像が分野別や地域特性を活かした形に繋がっていくところまでが我々の責務のようです。個々の具体的な施策については、例えば環境エネルギーなら環境エネルギーの別の市民参加の委員会とか審議会等もあろうかと思いません。じゃあ我々は折角参加して、細部に踏み込んだ意見は言えないのかと言ったら、それも違うと思いません。ですから各々の委員の皆さんの得意な分野がおありと思えますから、それに言及していただくことは一向に構わないと思いません。一つ気になったのは、ビジョンは行政だけではなくて、市民、企業すべてを念頭に置いたビジョンになっています。それが段々ブレイクダウンしていくと、行政が責任を持って実施できる計画案というのが骨子になるわけですね。これは非常に難しいのですが、行政が主語になってやること以外に、市民や企業が主体的にやるのだけでも、その環境整備は行政がやるというように色んな段階がありますが、下手に文章に書いてしまうと、これは行政評価ということで批判されてしまうので、できもしないことは書けないということもあって、何かお行儀の良いことしか書いてないねとなってしまふ恐れがあります。だからそこは書き方を工夫して、行政が責任持ってやるのはこれとこれとこれ、市民の皆さん企業の皆さんNPOの皆さんが頑張るのを行政が支援してやるのはこれとこれとこれですとか、そこを書き分けていただければよいのではないかと思います。そういう意味では後者の部分は委員の皆さんがご自身の専門とか経験を生かして、例えばこんなことがあるよと、どんどん発言していただいて良いかと思います。

(松尾委員)

どうしても全体的に今までの議論と同じと言えば同じかも知れませんが、おぼろげなものになっていくというか、ディテールが創出できないまま、最終的になってきているというのがあると思えます。その中であって今、根本先生がおっしゃったように、区分けをして行政がやるべきことと推進すべきことが見えるようにということがあるかと思うのですが、これを読ませていただくと多くのことが今までの継続的なこと、当たり前と言えば当たり前ですが、継続的なことと発展的なトライ、両方存在すると

思います。未来ビジョンですから、是非、継続的なものは継続的なものとしてあるのですが、やっぱり行政として新しい未来を作るためにトライするところを工夫して是非入れ込んでいただければと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。これも他所の話を余りしてはいけないのですが、こういう分野別の計画というのは、市民の生活を支える屋台骨なので揺らいでもらっては困るし、簡単に失敗してもらっては困るのですが、新機軸をどこで出すか、それで定常的にやっていくシビルミニマムはきっちり押えた上で、例えば5大プロジェクトとか、3つの推進プロジェクトとかいう別建てで書くという書き方もあります。或いは分野別の中にチャレンジプロジェクトと定常的にやるプロジェクトを分けて書くというやり方もあります。だから何らかの形で見えるように工夫をしましょう。

(村田亜委員)

是非チャレンジプロジェクトの中に入れていただきたいと思うものがあるのですが、子育てと教育の中で10年後の姿の実現に向けての中で、子育てということと教育ということと、もう一つが働く母親とかの支援という3つの要素が入っているかと思うのですが、実現に向けた取り組みの方に行きますと、子どもの育ち、若者の自立、未来創造への人づくりということになると思うんですが、ここに就労している母親の育児支援とか、ワーク・ライフ・バランス的なことが政策の中には出て来ていないので、第1回の時に、今一番少子化というのが課題であるということを中心に大きく取り上げていたと思うのですが、女性が浜松に住みたくないというふうになってしまう状況ですと、それこそ人口の減少が促進されてしまうということがあり、実際私の友人の中にも浜松で保育園に入れなくて他市に移ったという人がおります。今、本当に保育園に入れなくて、働くのは浜松にしても、周りの都市に住みましょうということになると、そこで子どもが育ち、定住するということになってしまうという可能性がありますので、ここは大きな課題の一つとして、今までやってきたことの中にはないですけども、これからの未来の課題として是非強力に取り組んでいただければ良いなと思っております。

(根本学部長)

はいありがとうございます。引き続きご意見ご提案いかがでしょうか。

(杉山委員)

行政と市民の役割分担という話がありましたが、この計画を見ていると、何々します、何々しますとあると、ああ行政がやってくれると思ってしまって、市民が自分はこれならできそうかなと思える目標を、計画の案に載せるほどのものなのかなとは思っているのですが、でも一人ひとりができること、一人でもできること、10人ならできること、そういうものを目標として入れてあると、これを読んだ時にこれならできそうだからこの分野でこれをやってみようかなというふうに市民が思える仕掛けづくり、例えば17ページの生涯にわたる健康づくりだったら、市民は一日1万歩歩くように努力しましょうというような目標が書いてあれば、これならできそうかなと思えると思います。個人のレベルで実行できる目標があると、政策に対してもっと一人ひとりが積極的に取り組めるかなと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。どう普及してこれを受け止めるかというのがありました。これも実際他所の自治体でやったことがあります。パンフレッ

ト、つまり分厚い冊子を全市民に配る訳ではないので、縮刷版みたいなものを配ることが多いです。その時に一方的に「全部決まったから、説明するから読みなさい」、というパンフレットではなく、市民が埋めるコーナーというのをわざと作っておいて、そこに例えば1万歩歩くということを書き込めるような、だからタウンミーティングでも勉強会でも良いですが、行政がパンフレットを配る時に最後の一笔を市民が書き込んでそれで完成するというようなこと。当然行政が責任をもってやることは当然ある、それに市民が主体的に参画してやるというインタラクティブなパンフレットを作って普及啓発に使うというやり方はあると思います。

(松本委員)

段々完成してくると何か総花的になってきて、最初我々がやってきた議論というのは、浜松というのは他の政令指定都市と違うのではないかと、全産業、林業から農業漁業全てあって、漁業が一番小さいくらいで、一つの国家ができるようなそういう特色を持っているのではないかと最初、そういう話をしていましたが、段々総花的で、これをやれば将来30年後の浜松市の人口減少が止められ、他の都市と比べてやはり浜松は他の都市と違うということが出てくるだろうかと不安になってきます。やはりこれはこれで良いですが浜松市は他と違うというものがあって、そういう大きな目標や方針があって、それでこういうものがありますよということにしないと、昔と比べると総花的になってしまっているのではないかなという感じがします。

(根本学部長)

ありがとうございます。そこは本当に痛し痒しということなのですが、ビジョンとプランですから、ビジョンのところはそれなりに浜松ではということになっていると思います。先程から出ているようにビジョンと12の未来像とこのプランがどういうふうになっているのかということと、どうしても総花的になってしまうのですが、このプランの中でさきほど言った5本の推進の柱とか、戦略プロジェクトはこれだとか、これこそが浜松らしい施策だとかという濃淡をつける、そういうことでいけると思います。

(松本委員)

是非濃淡をつけてほしいです。特化してほしいです。そうでないとこれを読んだ時に他の市が作ったって同じという気がしてきます。

(根本学部長)

ではよろしければご発言いただいていない委員がおられましたら、是非どんな些細なことでも感想で良いので一言いただければと思います。

(山田委員)

自分の話になってしまうのですが、私は今、藤枝市の「藤枝おんぱく」という地域起こしのイベントに関わっていて、イベントを通して藤枝市が好きになっていて、浜松市ももちろん何年も住んで来て、浜松のために何ができるかということも考えるのですが、藤枝のために何ができるのかを最近考え始めていて、そのきっかけになったのは藤枝が好きになったということがまず大きかったので、こういったビジョンとしてこれから担っていく人たちにどうやって浜松を好きになってもらうかということも考えてもらえると、もっと未来の話になっていくのではないかなと思いました。

(根本学部長)

もっと早く言ってくださいよ、というくらい大事なお話でした。私、

「おんぱく」の仕掛け人もやっているのですが、大事なことは市民や学生さんが主体的に参加できる舞台を作ること。ここまで行政の役割、それで参加すると好きになったりやり甲斐が出たりします。これは是非浜松市も取り組んでいただければと思います。

(石倉委員)

これを全体的に見てみて、皆さん言われたように、どこにでもあるような内容になっているので、これは途中段階なのであまり発言はしなかったのですが、これをもっと変えるんですね、明確に。その時に色々言うべきかなと思っていて、今、取りあえずさきほども言われたように学生や市民が主体的に活動できる場の提供という意味では全然入っていないし、そういうのを意識しなかったのではないかなと思えるくらい、しますとかですとか書いてあって、私はどちらかという中山間地域で色々活動してまして、サークルも立ち上げました。一番感じていることは学生なので資金面の援助が全然なくて、移動とかで困っていて、そういう声はこういう計画案だと全体のことになってしまうので外されるかなと思って発言しなかったのですが、しかもそういう内容は最初の段階から言うべきであって、私は最初の頃はこういう活動をやっていなくて言えませんでした。そのため発言を控えていました。

(根本学部長)

控えなくていいので、どんどん発言しましょう。大事な論点です。たまたま2つ若い方からの発言が続きましたけれども、今日の案で大きく欠落しているのが、市民や企業団体が主体的に参画できるような施策が見えていないということですね。先程からずっと繰り返して出ているのが都市経営の推進体制の問題です。一つ一つのプロジェクト、個々のものをここで詰めていくということはしません。そういう活動をしていて悩みがあるというのはどんどん発言していただいて、であればそういう中間支援の窓口をやるべきではないとか、行政が参加する施策としてそこを助ける道はあると思います。だからどんどんこれは困るとかお金が足りないといった経験を言ってもらって良いと思います。

(榊原委員)

都市経営という単語が出ていまして、私も企業に所属する労働者ですけど、必ず中期経営計画だとか年度計画だとかそういったのが出されている中で、必ずこういうお題目というか、最初に文章があって企業の場合はその後にスケジュールと数値目標が必ず入っています。これを読んでいてそれがないというところをずっと疑問に思っていて、ただそこは企業と行政との違いがあるのかと思って聞いていたのですが、何となく進めずだとかこうしますというよりも、市民にどんなベネフィットを提示できるのか、「こうなります、住んでいればこんな良いことがあります」、というところをもう少し具体的に示してもらえれば、受け手としては、例えば企業の場合は収入がこれだけ上がって、費用はこれだけ抑えて、収益がこれだけになります。そうすると皆の収入が上がりますという絵を描くと思います。同じようなことで市民がこれだけ良い思いができるというところをビジョンとして書いてほしいと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。実は最後の方に重要な意見出てくるのですが、これは行政計画だからそれを考えなくていいということはありません。色んなところでスケジュール、数値目標100%はできないですけど、浜松のプランだってスケジュール例えば10年だったら、5年以内と次の5年と

か、書けますよね。それから数値目標だって待機児童ゼロとか書けるところは書けるはずですが。今日は本当にサンプルが付いているだけですが、もしこれをまとめるならば、そういう時間的な達成までの道筋と、できる限り数値目標を上げたらいかがですかと提案できると思います。あとはいかがでしょうか。

(酒井委員) 質問ですが、一次推進プランを出されてその後マニフェストに更に展開していく形という認識で良いのでしょうか。

(根本学部長) それでは事務局さんの方で、全体像をお話いただけますか。ビジョンがあってプランがあって、実施計画を作るわけですよね。

(事務局) まず10年間の計画を作った後は、これから実施計画ということで1年毎必ずそういった進捗管理をしていくようなイメージになって参りますので、実施の計画は確実に作って参ります。

(根本学部長) 大体こういう計画は3段階です。ビジョンと推進プランと実施計画ですね。今のお話だと毎年のローリングということですから、この推進計画はかなり具体性を持ったものを整備する必要があると思います。ですからできる限り数値目標だったり、ロードマップだったり、盛り込めるものは盛り込むという方向は是非提案したいと思います。

(鈴木市長) もちろん行政が仕事をしていく場合も、そういった数値目標や、スケジュール、これがないと仕事にならないですから、きちんと作ります。私も大体任期の前にはマニフェストを作ります。それは政策目標もきちっと項目をあげて、数値目標も或いは財政的な裏付けもできるものは全部書いて、それを各担当の皆さんに4年間でどういうふう to 実施するか、1年目はここまで、2年目はここまでやります、その財政的な裏付けはこうですというものを計画としてマニフェストの推進計画を作ってもらって、それを1年毎の戦略プランを作り、それが予算の裏付けにもなります。そこに落とし込んでその数値目標を達成するために実行するわけですね。それで一年終わると見直し、修正し、達成したものはそこで達成という、基本的に企業でやっているようなサイクルは行政でも今きちっとやられていまして、今ある意味では非常に長期的な指針みたいなものを作っている訳ですから、中々その中で具体的なこれをこういうふう to 数値目標を掲げるというのは難しいのですが、これを実行していく時にはそこを作っていないといけない。例えば環境の中でゴミの削減と一言で書いてありますが、これは行政ができる訳ではありません。一人ひとりの市民の皆さんが協力していただかないとゴミの削減はできません。ではどうやってやるのかというところでこちらから色々アイデアを提供したりですとか、分別をこうするとこうなります、これだけこういうふう to 取り組んでもらえれば一人当たりゴミをこれくらい削減できますよという提案をしたりします。それが全体としての浜松のごみの削減に繋がって、ゴミのプラントを作らなくて良くなったとか、焼却費用がこれだけ削減されてその分はもっと前向きな施策に予算をまわすことができましたと、そういうことは当然やっていかないとはいけません。その前段階のかなり長期的な指針を作っている、そんな状況だと思います。

(根本学部長) 市長さんから丁寧に説明して頂き、ありがとうございます。時間のこともありますので、折角ですからあと一言これだけはこのことがあれば、いかがでしょうか。

(松尾委員) 先程も言わせていただきましたが、どうしても書類にしてしまうと大人しいものになってしまうと思いますけれども、是非やらまいかということで頑張っていたいて、やらまいかの文章が出てくると良いなと思います。よろしくお願いします。

(根本学部長) 最後またご提案ですけれど、限られた時間で意を尽くせないところもありますし、発言を控えたという意見もあってとても残念なので、是非文章なりアイデアを、そしてやらまいかの戦略はこれだというような提案を事務局にお寄せいただいて、次の検討に活かせるように。また事務局さんにもお願いしたいと思いますし、委員の皆様にもお願いしたいと思います。それでは予定した議題はここまでということでございますが市長さんいかがですか。

(鈴木市長) ありがとうございます。是非、多分私もこうやって見ていると、いつもの総合計画だなという感じになってきています。痛し痒しのところがありまして、市というのはやはりあらゆる市民生活を支えているという立場なものですから、私なんかよく叱られるのは、色々な所へ施政報告へ行って重要プロジェクトだけ言うと、お前今日は教育の話が何もなかったじゃないか、とか農業の話の一つもしてないぞとか、言われます。全部言い出すと一晩かかるとよく言うのですが、皆さんの興味関心の分野も違うだろうし、おそらくこれでメンバーを入れ替えてご意見を聞くとまた違う関心を持っている人は違う分野の話が出てくるでしょうし、そういうところで段々集約していくとこうなってくるのかなという感じはします。是非その中でこれだけは尖がったプロジェクトを入れてくれという提案、実は市も沢山の職員がいますが、恐らくこれに関わっているのは、ほんの数人の企画調整部の職員が原稿を作っていますので、当然、一人ひとりのクリエイティブな能力は限界がありますので、やはり衆知を集めていかないといけませんので、是非具体的にこれを入れ込んでくれとか、こういうふうに尖がったプロジェクトをやってくれというような提案があれば是非出していきたいと思います。

(根本学部長) では進行を事務局にお返しします。

6 閉会

(事務局) 根本学部長、ありがとうございました。委員の皆様も活発なご議論をありがとうございました。これをもちまして、第5回浜松市未来デザイン会議を閉会します。なお、第6回は平成26年7月26日土曜日、午後2時から、会場は同じ全員協議会室にて開催しますので、ご案内します。それでは、お気をつけてお帰り下さい。